

研修を終えて

豊橋市民病院

4週間という短い期間でしたが、新城市民病院での研修を通して、多くのことを学ぶことができました。主には市民病院での外来や救急対応をさせていただきましたが、外の施設での研修も充実しており、豊橋では学べないようなことがたくさんありました。村の唯一の診療所というものに行くのも初めて、訪問看護や訪問リハビリに行くのも初めて、他にも初めて経験するようなことがありました。印象に残ったのは作手の診療所です。新城市内から診療所に行くにも山を登らないと行けず、大変だと思いましたが、村の人たちが診療所に行くにも交通の便の不自由さがあり、もっと大変なのだろうと思いました。また、処方できる薬や検査できる項目にも限りがあり、大きい病院での診療しか知らない私にとっては衝撃的でした。しかし、限られた医療資源の中でいかに適切に診療を行っていくのが重要なのだと感じました。

市民病院での外来や救急での診療においても普段の豊橋での診療とは違い、新たに学んだことがありました。違う、というよりは、普段できていなかったことを認識したという感じでした。私が豊橋で外来診療をするのは救急外来になりますが、そこでは次々に患者が来て、次々に診察していかないとはいけません。そのため、いかに早く診察を済ませるかということを常に考えてしまいます。必要最低限の話しか聞かなかったり、必要最低限の診察しかしななかつたり、検査も省略してしまったり、逆に一気にいろいろ検査してしまおうと思ったりと、1人の患者についてじっくり考えて診療するということができていませんでした。また、緊急性が低いと判断したものに関しては、特に気に留めることもなく流してしまっていました。しかし新城での外来診療は、患者さんの話をじっくり聞き、丁寧に身体所見をとり、必要と思われる検査をしっかりと考えるというものでした。最初は、1つの主訴に対しても何を聞くか、どういった所見をとるかも全然分かりませんでした。いつも通りに診察して先生に上申すると、病歴で聴取できていないところや所見を取れていないところを指摘されることが多々あり、普段いかに診察に抜けがあったのかというのを痛感しました。そして、今後は1人に対して丁寧な診察を心がけていきたいと思いました。

私は内科医になろうと思っています。先輩方から、内科にいきたいなら地域研修は新城の方がお勧めだと言われ、新城市民病院での研修を選びました。その言葉通り、4週間の研修を通して、今後の診療に必ず役立つであろう知識や診察技術、経験を積めたと思います。まだまだ勉強し足りないことだらけですが、今回の研修で学んだことを活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、新城市民病院のスタッフの方々にこの場をかりてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。